

# 2011

【応募期間】 2011年8月19日～9月15日

【応募状況】 20校（県内8、県外12）、742件（881人）

【審査結果】

## 《グランプリ》

ぐんぐん伸びる！！集中力 up desk☆

森野倫子（済美高等学校1年）

## 《特別賞（大分合同新聞社賞）》

おうちでかんたん！ 地獄蒸し

山本翔（別府市立別府商業高等学校3年）

## 《夢発展賞（大分県教育委員会教育長賞）》

タッチメニュー ～点字で注文！～

江藤美香（大分県立安心院高等学校3年）

## 《優秀賞》

Web学生証

黒田千賀（兵庫県立神戸商業高等学校2年）

食べられるお菓子のふた

藤井崇平（愛媛県立今治北高等学校2年）

## 《奨励賞》

絆ストラップ&絆ミサンガ

吉田絵理奈・田中羽衣・栃原渚・小山美月（大分県立海洋科学高等学校2年）

フルーツの紙クリップ

野田裕美（宮崎県立宮崎商業高等学校1年）

## 《努力賞》

サーモライフセーバーシステム

本岡弓佳（兵庫県立小野高等学校3年）

電動茶筌 ～まるやかに仕上げます！～

井上智晶（済美高等学校2年）

空気清浄機網戸

柚木あゆみ（済美高等学校1年）



**特徴**

- ペンや机の中身が落ちず、拾う手間が省けた！
- 授業中にペンが落ちたとき、周りに迷惑をかけない！  
=自分も楽☆
- 机が広々として、すっきりする！


→ **集中力UPにつながる！**

**キャッチコピー**

この机で  
勉強すれば…

**ペンも落ちない！受験も落ちない！**


**DESK**



ぐんぐん伸びる！！集中力 up desk☆

## アイデアの特徴

- 郷土の資源を最大限に活用できること
- 湧出量が多いため大量生産が可能
- 以前の家庭料理にはなかった新たな味
- 余分な油を落とし食卓をよりヘルシーに



おうちでかんたん！ 地獄蒸し

## 特徴

- ・メニューの上から簡単に貼ることが出来るように、シールは透明なタイプを使う。
- ・値段は数字シールを別に取り、自分で組み合わせできるようにする。



このように販売！

タッチメニュー ～点字で注文！～

### 【審査講評（抜粋）】

最初に全ての応募作品を審査員一同で興味深く拝見した。二度の書類審査を実施し、独創性、新規性、実現性、高校生らしさという観点から評価を行った。そうしたなかで、すでに実現されているアイデア、ほぼ内容が重なるアイデア、過去のコンテストで入賞しているアイデアと類似しているものは、書類審査の段階で残念ながら外した。そして、説得力があり、実現可能性が高いと考えられる作品を残したところ、今回表彰された10作品に絞られた。これらは問題意識（アイデアを考えたいきっかけ）がきちんと伝わってくるものばかりであった。なかには独自にアンケート調査を行った結果も載せてその問題の重要性をはっきりと示しているものもあり、書類審査通過に向けて努力を重ねたことが十分に伝わってきた。

そして、表彰式当日に実施されたプレゼンテーションは、発表時間が限られているなかで、各自が見出した問題とそれを解決するための具体的なアイデアを非常に分かりやすく審査員と聴衆にアピールするため、入賞者は全員、よく準備をし、真剣に発表を行なったと高く評価したい。すなわち、資料などをもとに明確に問題意識を提示し、実現可能性を示すために具体化できている部分を図示するなどして述べ、実現できた場合の利点を示すことができていた。また、課題がある場合もきちんと述べていた。「なるほど」と共感してもらうために試作品を持参しているケースもあった。特に上位入賞者のプレゼンテーションは迫力があり、説得力が高く、大学生だけでなくわれわれ教員等も見習うべきところが多くあった。

グランプリに選ばれた、済美高等学校の森野倫子さんの作品「ぐんぐん伸びる！！集中力 up desk ☆」は、教室で勉強する際に不都合に感じていることを具体的に示し、それらに対する解決策を図とともに分かりやすく提案している作品であった。書類、プレゼンテーション共に「なるほど」、「そういえばそうだな」等と十分に思わせる内容であった。

僅差で大分合同新聞社賞に選ばれた、別府市立別府商業高等学校の山本翔さんの作品「おうちでかんたん！地獄蒸し」は、別府が持つ地域資源を具体的に活かすアイデアであった。地元を愛し、地元ならではの資源を地域活性化につなげたいという思いが十分に伝わってきた。

大分県教育委員会教育長賞に選ばれた、大分県立安心院高等学校の江藤美香さんの作品「タッチメニュー ～点字で注文！～」は、社会的弱者が抱える、社会参加への障壁をいかになくすかという問題を解決するための1つの具体策と評価できる。社会へ向ける江藤さんのやさしいまなざしが反映された作品と言えるだろう。